

# 目指せ！世界ジオパーク

## 隠岐魅力UP

私は隠岐島前の海士町 藤広重や葛飾北斎らが隠岐(中ノ島)に住んでいます。名所として焼火(当時は「焚火」)を描いているのが、島前三島はそもそも、西ノ島の焼火山を中心としてそれをぐるりと取り囲むカルデラの縁。約630万年〜約540万年前の間の噴火によって島前カルデラが形成され、その火口中央部で新たに噴火した小さな火山(中央火口丘)が、焼火山です。

その中腹にあり、北前船の時代から航海安全の神として深く信仰されてきたのが、今回紹介する焼火神社。北側と東側の側面が岩

「岩穴にめり込んでいる……!?!」

登山用語でオーバーハン

り出した火砕岩の岩肌の、岩窟に埋もれるように構えられた小さな社が本殿で

す。北側と東側の側面が岩窟に接し、参道からは本殿

の西側しか見えません。その本殿と拝殿が通殿でつながって、複合的な社殿を構成しています。

三つ浮かび上がった現在社

殿のある

廠(岩屋)

に入った、

焼火権現の縁起とさ

れ、この由

来に基づい

て社殿が建

てられたそ

うです。本

殿は享保17

(1732)

年建立で、

隠岐の建築

では最も古

く、拝殿・

通殿も併せ

て国指定重要文化財となっ

ています。

島前住民にとっては、焼

火といえは旧正月の「春詣

り」。旧暦大みそかの夜中

に龍灯祭という神事が行

われますが、旧正月の5日

から約1カ月間、西ノ島町

だけでなく知夫里村や海士

町からも焼火神社に詣でる

風習が残っているのです。

集落などのグループで連

れ立って山登りをして参

し、その後社務所で直会

の昼飯をいただくのです

が、そこで供される神葉(ホ

ンダワラ類)の和え物は名

物の一つ。松浦宮司による

と、神葉を和え物料理とし

て出したのはここが初めて

だそうです。

そして焼火みやげといえ

は今年で終了します。

ば、ここでしか買えない「お

こし」。神社の扁額の書体

を生かした大胆なパッケージ

デザインが印象的で、春

詣りシーズンだけで約30

00枚も売れるんだとか。

私もいつも買って帰って参

拝に行けないおじいちゃん

たちに贈りますが、とても

喜ばれます。

島前にお越しの際にはぜ

ひ一度参拝してみたいか

がでしょうか。冬季は雪深

い日も多いですが、冬の海

を遠くに眺めながら苦勞し

て山を登り、雪が舞う中で

拝めば、その御神徳も増す

……かもしれません。

(海士町役場総務課情報政

策係 岡本真里栄)

年内の「隠岐魅力UP」

## 焼火神社 広重や北斎も描く



の西側しか見えません。その本殿と拝殿が通殿でつながって、複合的な社殿を構成しています。

三つ浮かび上がった現在社殿のある廠(岩屋)に入った、焼火権現の縁起とされ、この由来に基づいて社殿が建てられたそうです。本殿は享保17(1732)年建立で、隠岐の建築では最も古く、拝殿・通殿も併せて国指定重要文化財となっています。

島前住民にとっては、焼火といえは旧正月の「春詣り」。旧暦大みそかの夜中に龍灯祭という神事が行われますが、旧正月の5日から約1カ月間、西ノ島町だけでなく知夫里村や海士町からも焼火神社に詣でる風習が残っているのです。

集落などのグループで連れ立って山登りをして参拝し、その後社務所で直会の昼飯をいただくのですが、そこで供される神葉(ホンダワラ類)の和え物は名物の一つ。松浦宮司によると、神葉を和え物料理として出したのはここが初めてだそうです。

そして焼火みやげといえは今年で終了します。